



今後大型消費世代となっていくジェネレーションZ。

デジタルネイティブである彼らのテクノロジーへの精通や情報源は周知の通りだが、彼らの根底に潜む価値観や思考はどのように構築されているのか。

GenZ世代のカルチャーを先導している5名にインタビューをした結果、Identity, self-expression, relationshipの切り口から3つのパラドックスが浮き彫りとなった。



自分の思想や価値観、信念を曲げずに貫くことによって、一貫したアイデンティティを形成することで、正解のない世の中を生き抜く。

STUBBORN

FLUID

流動的で目まぐるしい時代だからこそ、彼らの中にも「絶対」は作らない。「今」の感覚や価値観に基づき、自分を型にはめたり、将来の自分を決めつけたりもしない。今日の自分を肯定しつつも、機転を利かせ、時には思いっきり視点を変え、変化を受け入れる余裕を忘れない。



Identity

働き方やセクシュアリティなど、自己のあり方が多様化する現代。これまで常識とされてきた「あるべき姿」や「辿るべき道」が通用しない時代に生まれ育ったGenZには、自らを創造し、確立する自己構築力がより一層求められる。

世間や他人の基準を気にせず、好きなように生きられる自由がある反面、SNSなどを通じてこれまで以上に他人との比較が容易になったことにより、GenZにのしかかる「何者かにならなければいけない」、「何かを成し遂げなければいけない」プレッシャーは否めない。

今の時代を生き抜くには、地に足をつけ、自らを貫く強い姿勢はもちろんのこと、答えのない世の中に整合すべく、決めすぎない流動的なアイデンティティを持つことが鍵とされる。

自分の アイデンティティーや 生き方に筋を通す

自身の信念と矛盾するものを切り捨てる
大胆な行為は、ブレない自分軸を形成する
上で重要なこと。

それは、日常の思考やスタイルに限定せず、
学校や仕事など大きな
ライフステージにおける決断にも
見られる。

「今の自分」がやりたいことを犠牲にする、
またはポリシーと矛盾を生むような
我慢や時間の投資は、一貫した
アイデンティティーの形成を妨害する
ものとして取り除かれる。



“

服飾系の大学に入学したが、言葉を使った表現に次第に興味を惹かれて、「ライターとして修行を積みたい」と思い始めた。それからは、学歴社会ではあるけど、90分授業に座る時間が自分に勿体無いと感じた。親に申し訳ないし、周りの大人に止められたけど、2年生で大学を中退した。

Miku, 20

大学中退後、出版社に入りアシスタントとして務めたが、そこで作っている雑誌の内容と自分の考え方にギャップがあった。典型的な「女性のあり方」をフィーチャーした企画の取材を任された時、時代遅れな考えだと思っているのに、正解かのように取材することに違和感を感じ、割り切れずその仕事を辞めた。

Kotetsu, 23

”

人生に妥協はつきもの、 ではない

人間関係において、誰かのために何かを妥協することは、アイデンティティーを確立していく上で自分を乱すリスクになり得る。

例えば恋愛では、相手に合わせることや、自分の中で恋愛が占める割合が増えることは、自身の幸せを妥協し、自己確率の時間を犠牲にする側面があることを懸念する。

女性にとって結婚は、未だ自分の夢や仕事とトレードオフを伴うイメージが強く、あくまでも自分が乱されない範囲での恋愛・結婚が理想。



“

結婚は自分の幸せを妥協しないといけないイメージがある。海外に住みたいのもあるし、理想像は相手と一緒に住んで生活することだけど、そのために自分の幸せを妥協したくない。

Miku, 20

小さい頃から結婚よりも、自分のやりたいことをやっていくという考えがあった。人と付き合っているのかなって。結婚は生き抜くための最終手段だと思っている。逃げ道。自分のやりたいこと(仕事)が実現できなくなったときに、最終手段として養ってもらうイメージ。

Sara, 19

”



“

(ポリアモリーは)経験がないから、興味があると思わないけど、好きになった人がそうだとしたら考えはする。トライする。経験ないから、平気かもしれないし、いい関係を結べるかもしれないし。

Kotetsu, 23

”

白黒つけず、余白を残す

不確実な時代であるからこそ、今の価値観に縛られず、あらゆる変化の可能性に対し恐れずオープンでいることを忘れない。

例えば、自身のセクシュアリティや、恋愛スタイルについて説明する際も、「今は」という前置きが度々使われた。

「今は、男性が恋愛対象」
「今は、複数人恋愛をやるかわからないけれど」

たとえその可能性が低いとしても、真っ向からは否定をせず、「～かもしれない」と、答えに余白を残す傾向がある。



“

仕事でも、仕事以外でも、関わる人はどういう思考していて、どういうものを大切にしているかは共有したい。

コミュニケーションを大事にしたい。意見が違っても、自分の中で分け隔てず、いろんな人と関わりたい。

Kotetsu, 23

友達との時間は大事にしている。自分の中だけの考えを友達と共有すれば間違っていることにも気付けるし、インスピレーションにもなるし、刺激を受けるから。

Miku, 20

”

正解を見つけようとせず、 探り続ける

彼らが生きる人生に正解・不正解がないように、自分自身の考えが正しいと決めつけることもない。

自分の中の考えを精査するためにも、他人との意見交換や、コミュニケーションは特別大事にしている。

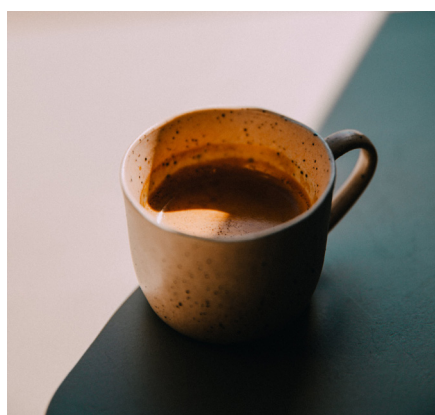
相手との異なる部分や隔たりから新しく学び、時に修正し、磨き上げていく。彼らの思想や価値観はこの繰り返しのによって、常に変動しているものである。

RAW

完璧ではない部分も自分の一部として許容し、包み隠さず表現する。既存の枠に自分をはめ込むより、自分の気持ちに正直に、やりたいことをするのが人間としてリアルである。



EDITED



自らの価値や強みを理解しているからこそ、自分の価値観軸において「カッコ悪い」と思う部分を「エディットアウト」し、自分の見せ方をコントロールする。

Self-expression

2010年代後半、企業や政府の相次ぐ不祥事が発覚し、これまで絶対的であった権力に対する不信感が募った。繰り返される隠蔽を背景に、物事により透明性が求められるようになった。

欺瞞に満ちた世界の中で、虚偽や捏造の払う代償を間近に見て育ってきた Gen Z。自分や周りの人に対して、正直で誠実にいることの重要性を身を以て感じてきた。

しかし、自己表現のためのツールが増え自分をブランドのように表現することが求められる中、自分の見せ方に関して気を抜けないという現実があるのも確かだ。ありのままにいたいと考える反面、表現したい自分に見合わない部分を人前に晒したくないという気持ちも強い。

自分の気持ちに対して 正直に、周りに対しても 誠実に

自分がどう感じているのか、何がしたいのかという心の声に従うことが大切と考えているGenZ。自分に忠実に生きることを大事にすると同時に、周りに対してもオープンでいることを忘れない。

例えば、互いの了解があるならば不倫や浮気など、枠にはまらない恋愛に対しても寛容である。
自分以外の人に対し誠実である限り、自分の気持ちに正直に行動し、既存の枠から外れることも厭わない。



OPEN

“

オープンリレーションシップは自分を軸に道をはやせるというイメージ。全然ありだと思う...もし浮気・不倫をしたいのなら、事前にコミュニケーションしてほしい。

Sara, 19

”

完璧ではない自分、 でもそれが自分

弱い部分や生々しい部分も含め、完璧でないのが人間。そういう部分も含め、自分を受け入れる。完璧はつまらないし、弱みこそが個々を特別な存在にする要素である。

本当であったら隠したいようなセンシティブな悩みも、あえてオープンにシェアする。美化されないリアルな姿を共有することで、自分も解放されるし、誰かの助けになると信じている。



“

ZINEは1人で最初から最後まで作った。私の思春期特有のじれったい感じとか何者にもなれない感じとか、自分の過去のことを記録として残しておきたいと思った。ちょうど20になった時にそれまでの集大成として作りたいと思っていた。誰かに見せるというよりは日記を紙にしたような感じだけど、いろんな人に読んでもらっているうちにやってよかったと思った。

Miku, 20

不安障害が出てた時に、いろんな書籍を読んだ時、現状に不安に思っていることが言葉になってたことに救われた。文章はパーソナルなことであって、検索しても出てこない経験談。僕が感じているモヤモヤは他の誰かに当てはまるし、その人を安心させることがあれば、作品を作る時に意識する。自分も整理されたらハッピー。

Kotetsu, 23

”



“

恋人に対してだけ出る欲望がストレス。一番人間っぽくなるかもしれない、自分の本質が出る。甘えかもしれない。所有したい気持ち、柔軟になれない自分..欲望を無くしたい。迷惑というか。ダサいと思う。いろんな人に対してこうして欲しいとかはめっちゃダサい。

Kotetsu, 23

”

自分をコントロールできないのはダサい

正直な自分を見せることは大事だと思う。しかし、他人に自分の価値観を押し付けようとしたり、過度な期待をしたり、頼りすぎることはカッコ悪い。

自分をコントロールできているという印象を与えるために、カッコ悪い部分は見せないように努力する。

アイデンティティーや生き方が多様化している中で、異なった価値観や考え方を受け入れないのはカッコ悪い。GenZは差別に対して非常に敏感。

[INCLUSIVE]

]EXCLUSIVE[

自分と異なる考え方や価値観にオープンな姿勢を持つ一方で、人付き合いから、自分を乱すようなストレスは感じたくない。結果、「心地よい共感」を齎してくれる仲間はマスト。

Relationship

多様性が謳われる時代に生まれ育ったGenZは、様々な価値観に関心を示す。様々な人となつながら、多様な考え方を吸収するためには、オンラインで全く知らない人と話すことも厭わない。

人と知り合う方法が増えていく中で、学校や職場で知り合う人達と無理して付き合う必要もなくなった。刺激は欲しいが、ストレスはNG。

自分とは違っても、 ジャッジしない

GenZは偏見と差別を許容しない。
メディアで描かれる
ジェンダー・ステレオタイプや、
ルッキズムなどに強い抵抗を示す。

多様性を重要視する中で、相手の生き方
や考え方は尊重し、逆に自分の生き方や
考え方も否定されたくない。



“

男は頼もしくないと、力強くないとダメ。
男性に対するマジョイズム的な印象に違和感がある。それが全面的に良いとされるっていうのは違うと思う。男友達と会話している時、強烈なルッキズムの人がいたり、求める女性像があまりにもステレオタイプすぎるとかある。

Atsushi, 19

”



“

その人が相手に見て欲しい部分が
インスタに出ているから、その人の
センス、表現したいものがわかるので、
必須として確認している。何かしら作っ
ている人が好き、作っているものがダサか
ったら、一気に冷める。

Kotetsu, 23

インスタは履歴書みたいなもの。共通の
友達を見て、どういうことをしているのか
見て、好きだと思ったらフォローする。

Sara, 19

”

共感できる仲間 のための フィルタリング

共通の友達がいる人や、世界観に共感を持てる人を選定することは、「心地良い共感」を齎してくれる仲間を作る上でのリスクヘッジ。

気になる人がいたら、インスタグラムで表現される世界観をチェックして、確信へつなげる。

What's next ?

今までGenZは、次世代の大きなターゲットとして、上の世代とは全く異なる価値観を持つ「新人類」のように語られてきた。「多様性を重視する」、「リアルさを求める」、「自己表現に躊躇しない」というような、繰り返し唱えられてきた特徴が確かに見受けられる一方で、その全く逆と思えるような価値観や行動に出ることもある。

ブランドはその絶妙なニュアンスを履き違えると、全く彼らに響かないコミュニケーションを発信してしまう恐れがある。彼らの発する言葉を文字通り捉えるのではなく、ニュアンスを正確に理解することが重要になる。

とはいえ、10代後半から20代前半は、まだ個が確立しきっていないライフステージでもある。時には矛盾にも見える若さならではの危うさや戸惑いがあることも忘れてはならない。そして様々な情報源を駆使して、「今」の世界における自分の正解を常に意識している傾向にあるため、彼らの考え方は流動的である。「今」の彼らの価値観を揺るぎないものだと考えず、日々変わり続ける社会や文化の変動が、彼らにどのような影響を及ぼしているのかを、常に敏感に感じ取ることが、時代に即したブランドとして成長し続けていく上で必要不可欠だ。

業界、トピックにカスタマイズしたコンサルティングについては、
couldyou@passme-thesalt.comまでお気軽にお問い合わせください。